

和歌山市子ども・子育て支援事業 に関するニーズ調査

【結果報告書 概要版】

平成 26 年 3 月

和 歌 山 市

1 調査の目的

和歌山市では、子ども・子育て支援法（平成 24 年法律第 65 号）に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、5年間を一期とする子ども・子育て支援事業計画を作成します。

本調査は、この計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「量の見込み」を市が算出するとともに、子ども・若者支援に向けた取組を推進するため、市民の皆さんの教育・保育・子育て支援、子ども・若者支援に対する状況や意見などを把握するために実施しました。

2 調査概要

- 調査地域：和歌山市全域
- 調査対象者：①和歌山市在住の「就学前児童」をお持ちの世帯・保護者（就学前児童調査）
②和歌山市在住の「小学生」をお持ちの世帯・保護者（小学生児童調査）
③和歌山市在住の「小学生」「中学生」「高校生」
- 抽出方法：住民基本台帳より、無作為抽出
- 調査期間：平成 25 年 11 月 5 日（火）～平成 25 年 11 月 30 日（火）
- 調査方法：①②は郵送配布・郵送回収による郵送調査法
③は、学校を通じて直接配布・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	回収数	回収率
就学前児童	3,000	1,240	41.3%
小学生児童	1,000	453	45.3%
小中高生	1,036	1,036	100.0%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中における「不明・無回答」は、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

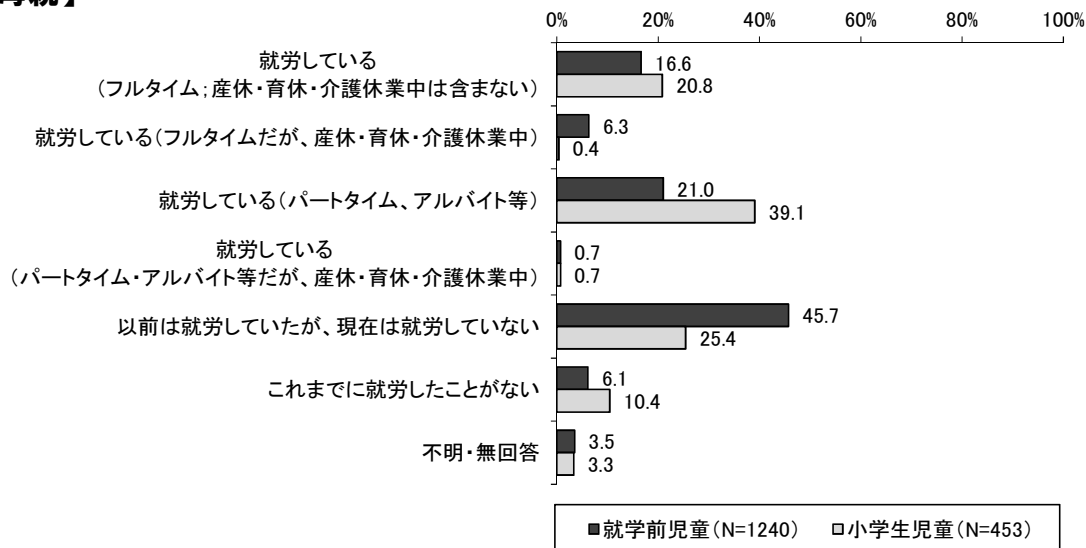
就学前児童・小学生児童用調査 結果概要

保護者の就労状況について

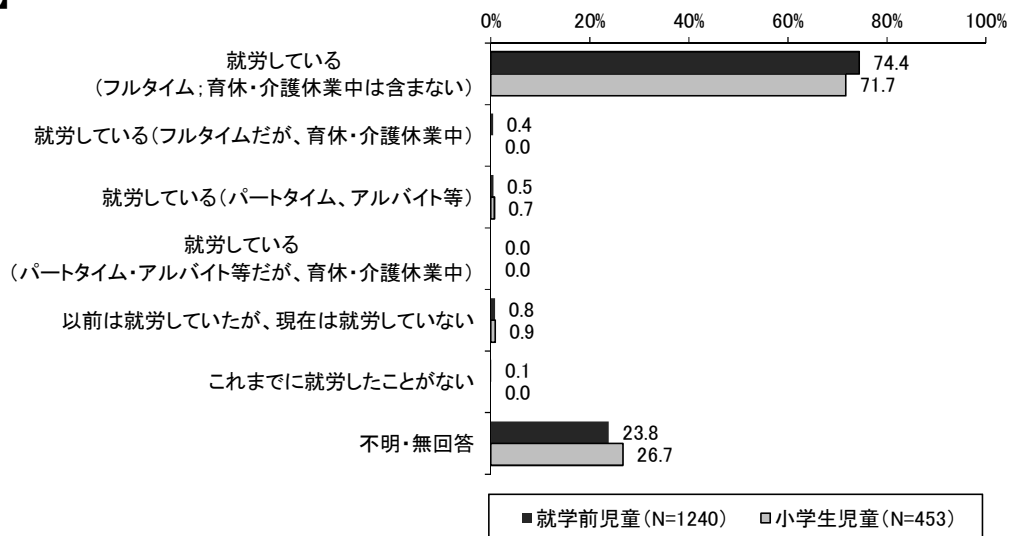
●保護者の就労状況

保護者の就労状況をみると、母親では就学前児童で「以前は就労していたが、現在は就労していない」が45.7%、小学生児童で「就労している（パートタイム、アルバイト等）」が39.1%と最も高くなっています。父親では「就労している（フルタイム）」が就学前児童で74.4%、小学生児童で71.7%と最も高くなっています。

【母親】



【父親】



* 「フルタイム」：1週5日程度・1日8時間程度の就労
「パート・アルバイト等」：フルタイム以外の就労

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について（就学前児童）

●平日に利用している教育・保育事業×年齢

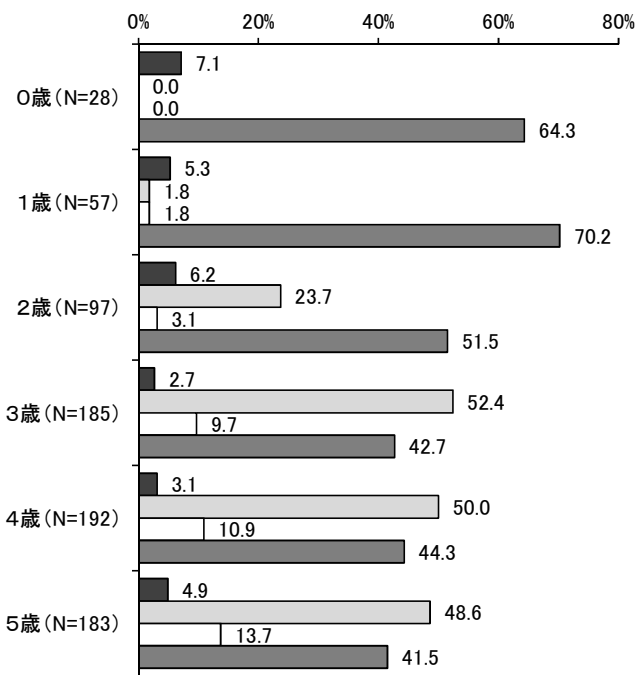
●平日の教育・保育事業として「定期的に」利用したいと考える事業×年齢

平日に利用している教育・保育事業を年齢別にみると、0～2歳では保育所を利用している割合が高く、3歳以降から幼稚園の利用割合が保育所の利用割合を上回っています。

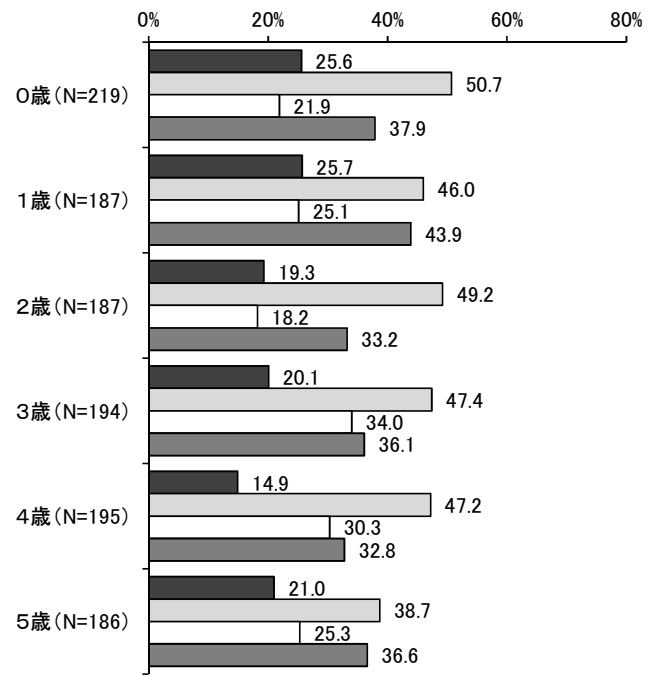
平日の教育・保育事業の利用意向を年齢別にみると、各年齢ともに幼稚園の利用意向が高くなっています。また、利用状況に比べ、幼稚園の預かり保育や認定こども園の利用意向も高くなっています。

子どもや保護者が希望する教育・保育事業が柔軟に提供されるよう、事業展開が必要となっています。

◆現在利用している教育・保育事業



◆今後利用したい教育・保育事業



■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

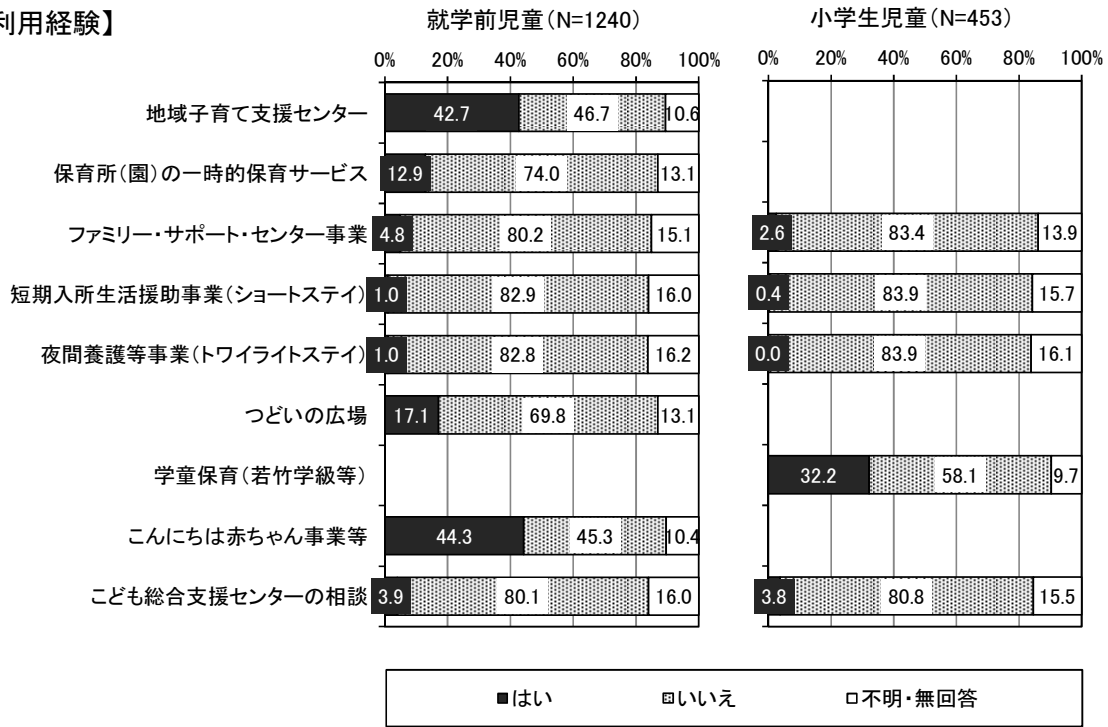
■認定こども園 □幼稚園 □幼稚園の預かり保育 ■認可保育所(園)

子育てサービスの利用経験、今後の利用意向

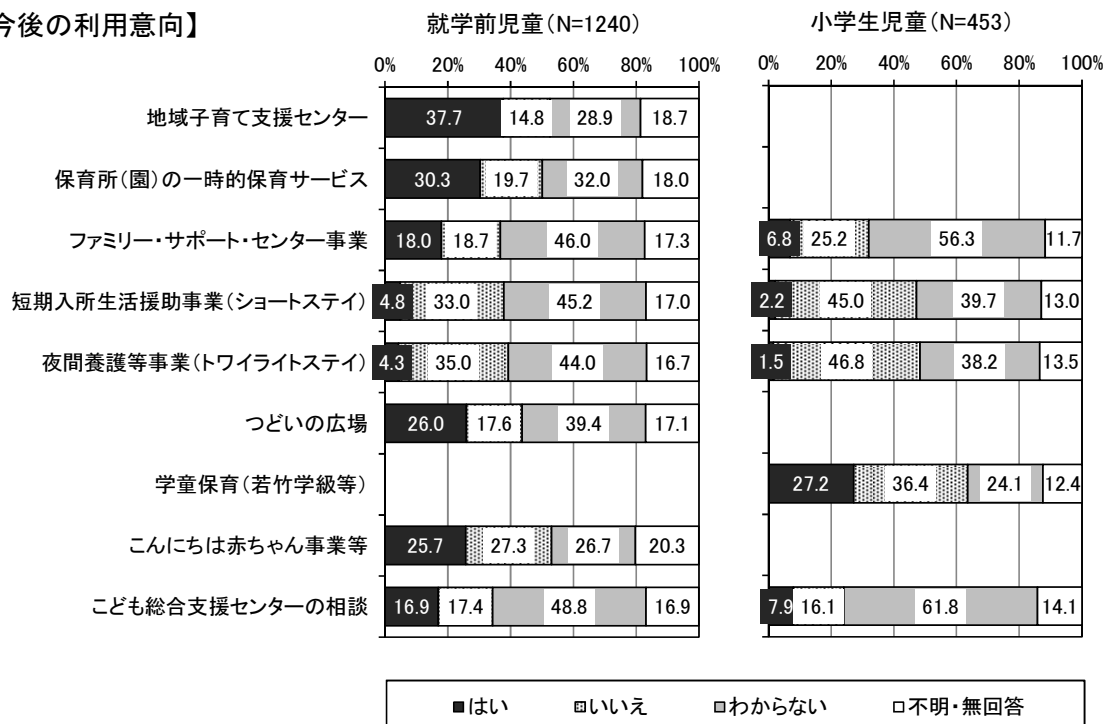
●子育てに関する機関や子育てサービスの利用経験、今後の利用意向

子育てに関する機関や子育てサービスの利用経験及び今後の利用意向をみると、就学前児童では「地域子育て支援センター」「こんにちは赤ちゃん事業等」を除く他のサービスで利用意向が利用経験を上回っています。小学生児童では「学童保育（若竹学級等）」を除く他のサービスで利用意向が利用経験を上回っています。

【利用経験】



【今後の利用意向】

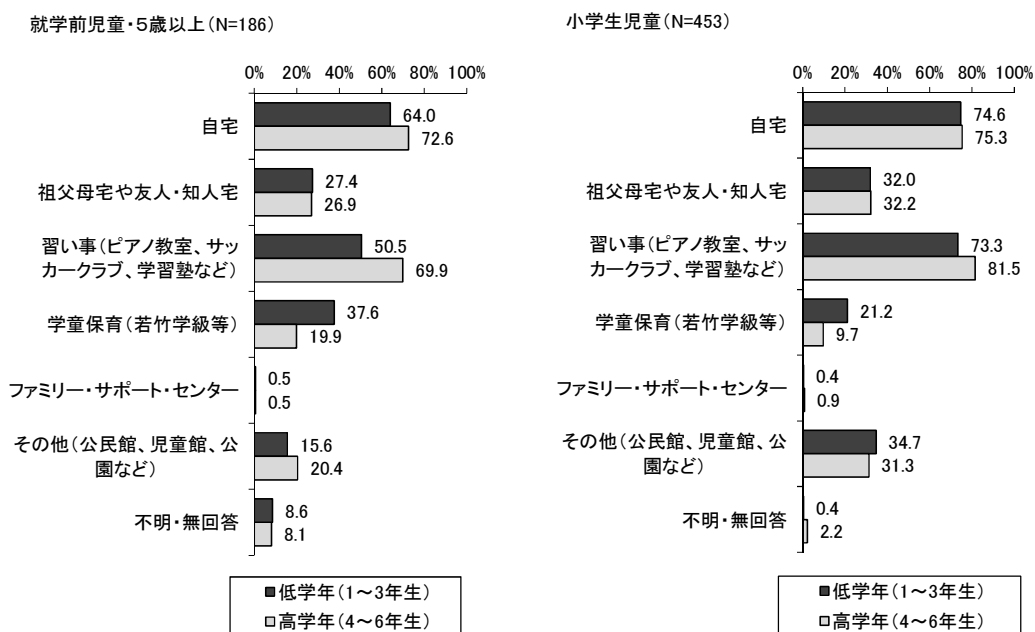


小学校就学後の放課後の過ごし方について

●小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主にどのような場所で過ごさせたいと思うか

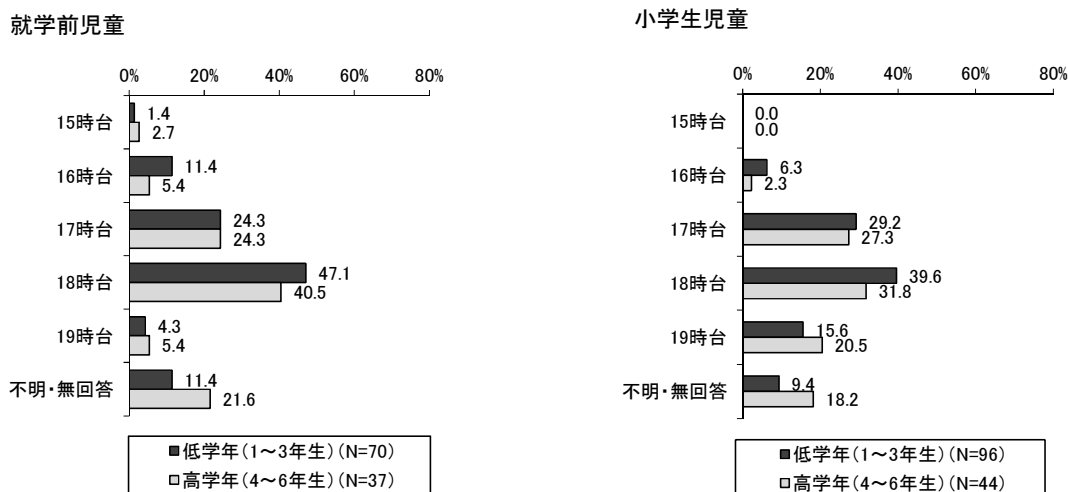
小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間を主に過ごさせたいと思う場所をみると、就学前児童では「学童保育（若竹学級等）」は『低学年（1～3年生）』で37.6%、『高学年（4～6年生）』で19.9%となっています。

小学生児童では「学童保育（若竹学級等）」は『低学年（1～3年生）』で21.2%、『高学年（4～6年生）』で9.7%となっています。



●「学童保育」の利用希望時間（下校時から何時まで）

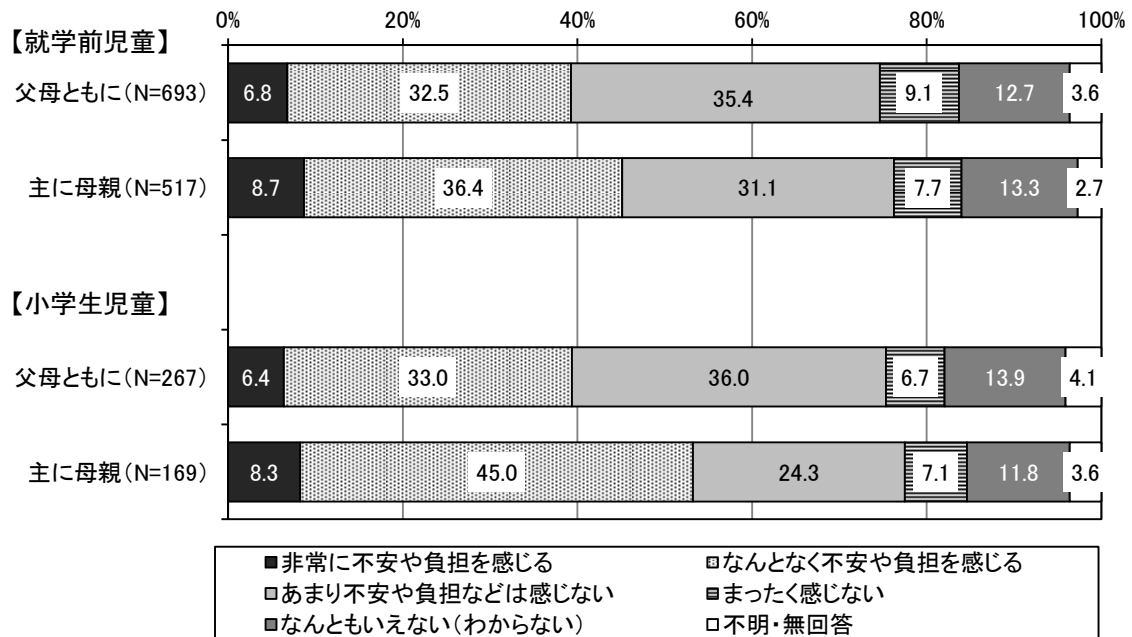
学童保育を選んだ人の利用希望時間では、『低学年（1～3年生）』については就学前児童、小学生児童ともに「18時台」が最も高く、『高学年（4～6年生）』についても就学前児童、小学生児童ともに「18時台」が最も高くなっています。



子育てに関する不安や悩みに関して

●子育てに関する不安感や負担感の有無×教育を主に行っている人

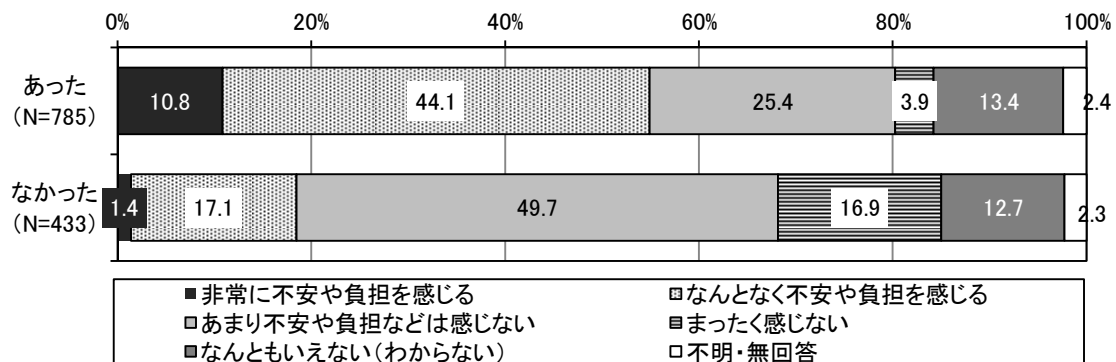
子育てに関する不安感や負担感について、教育を主に行っている人別にみると、就学前児童、小学生児童ともに、父母ともにに比べ、主に母親が教育を行っている人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高くなっています。



●子育てに関する不安感や負担感の有無

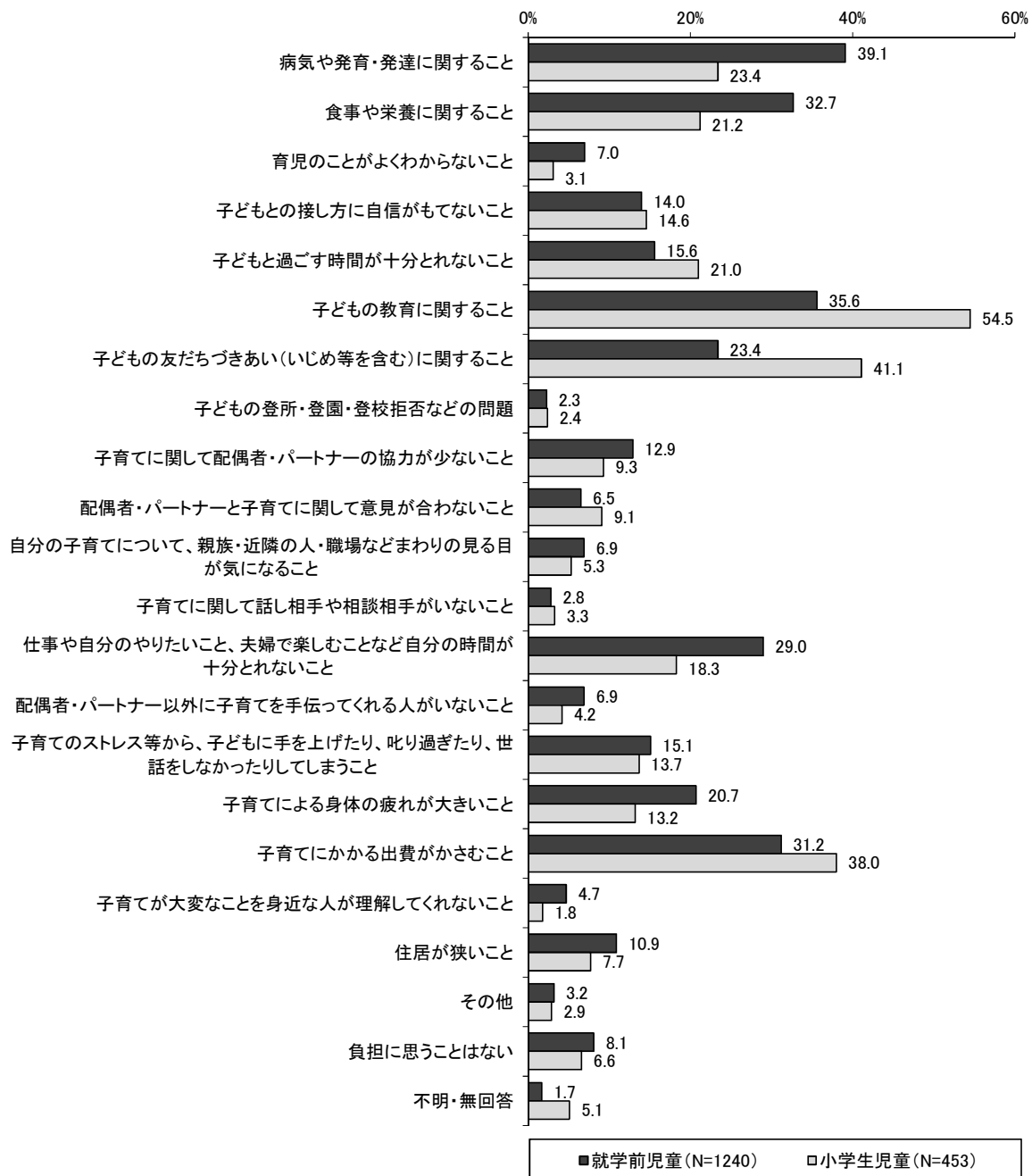
×妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無

子育てに関する不安感や負担感について、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことの有無でみると、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことがなかった人に比べ、妊娠中、出産後に母親が不安定になったことがあった人のほうが「非常に不安や負担を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせた『不安や負担を感じる』が高く、36.4ポイントの差がみられます。



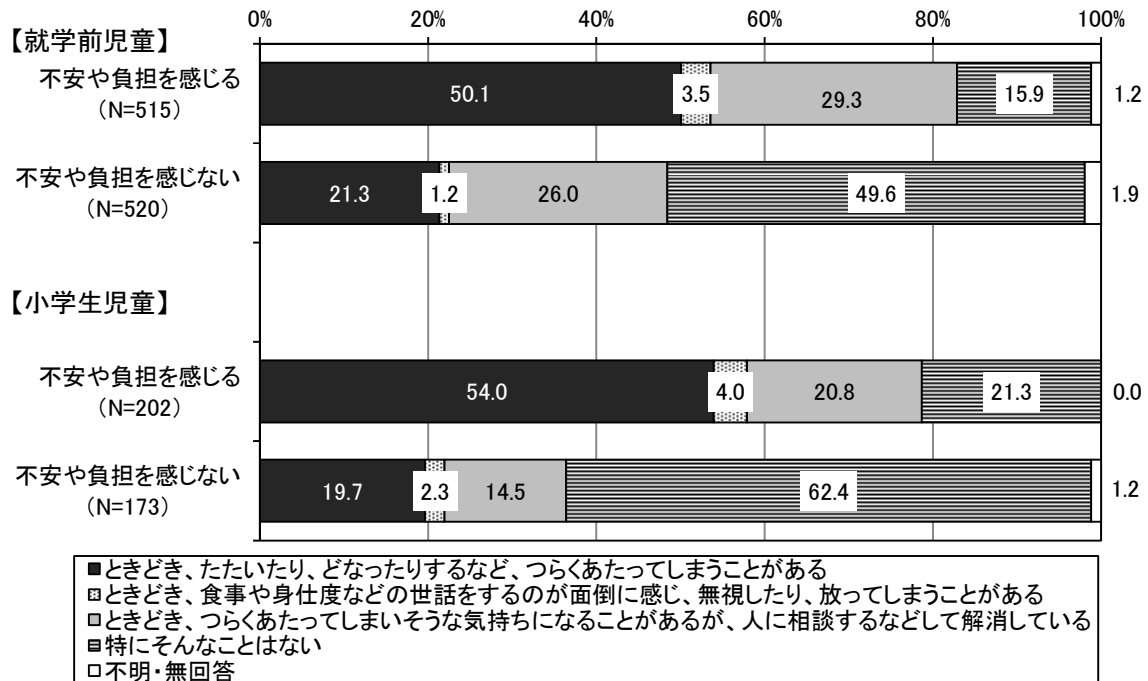
●子育てに関して、日頃悩んでいること、気になること

子育てで悩んでいることや、気になることとしては、就学前児童では「病気や発育・発達に関すること」が39.1%と最も高く、次いで、「子どもの教育に関すること」が35.6%、「食事や栄養に関すること」が32.7%となっています。小学生児童では「子どもの教育に関すること」が54.5%と最も高く、次いで、「子どもの友だちづきあい（いじめ等を含む）に関すること」が41.1%、「子育てにかかる出費がかさむこと」が38.0%となっています。



●子育てで子どもにつらくあたってしまうことの有無×子育ての不安感や負担感の有無

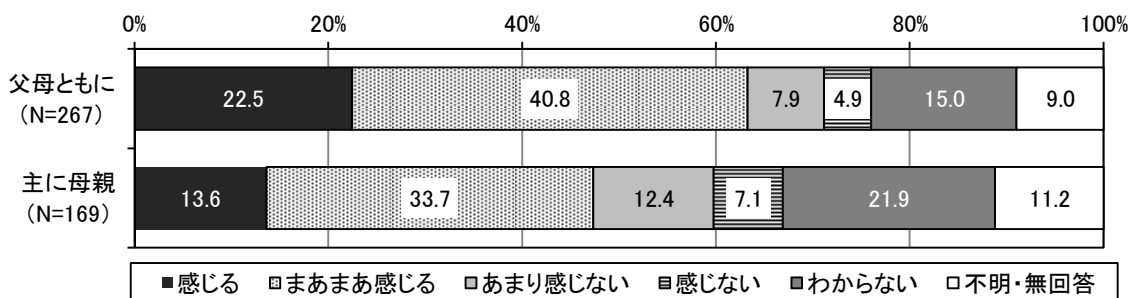
子育ての悩みや不安から、子どもにつらくあたってしまうことの有無について子育ての不安感や負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに不安や負担を感じる人のほうが「ときどき、たいたたり、どなったりするなど、つらくあたってしまうことがある」の割合が高く、「特にそんなことはない」の割合が低くなっています。



ワーク・ライフ・バランスについて（小学生児童）

●仕事と生活の調和が図られていると感じるか×教育を主に行っている人

家庭で、仕事と生活の調和が図られていると感じるかについて教育を主に行っている人別にみると、主に母親に比べ、父母ともに教育を行っている人のほうが「感じる」「まあまあ感じる」を合わせた『感じる』が63.3%と、16ポイント高くなっています。

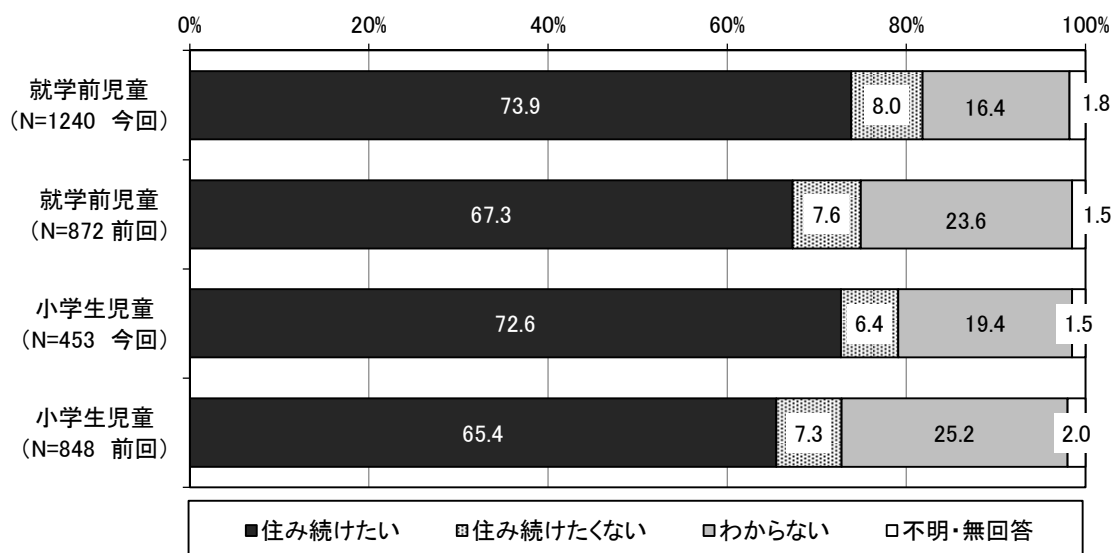


和歌山市での子育てや子育て支援サービスについて

●居住願望

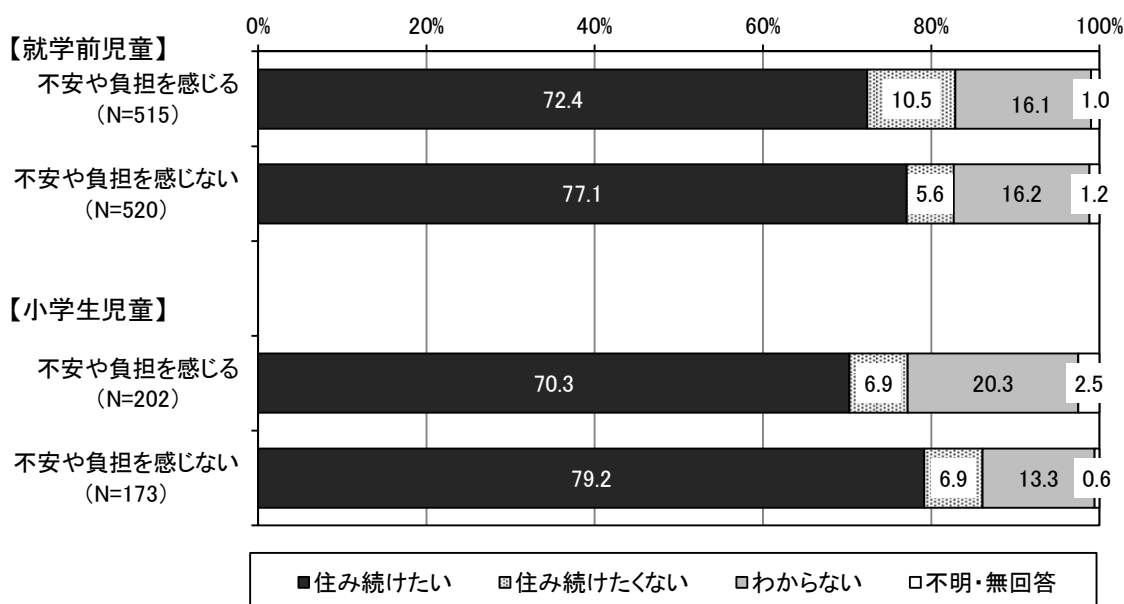
居住願望をみると、今後も和歌山市に「住み続けたい」が、就学前児童では73.9%、小学生児童では72.6%と7割以上を占め、「住み続けたくない」を上回っています。

また、就学前児童、小学生児童ともに前回調査時に比べ、「住み続けたい」割合が上昇しています。



●居住願望×子育ての不安感や負担感の有無

居住願望について子育ての不安感や負担感の有無でみると、就学前児童、小学生児童ともに不安や負担を感じる人に比べ、不安や負担を感じない人のほうが、定住意向が比較的高くなっており、不安や負担がなく子育てができる環境をつくることで、定住意向も高まり、定住の促進につながる可以考虑されます。

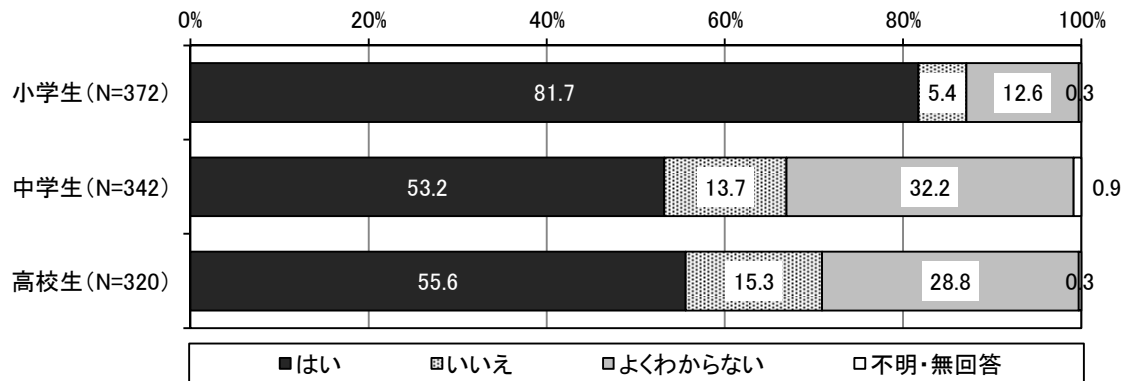


小中高校生調査 結果概要

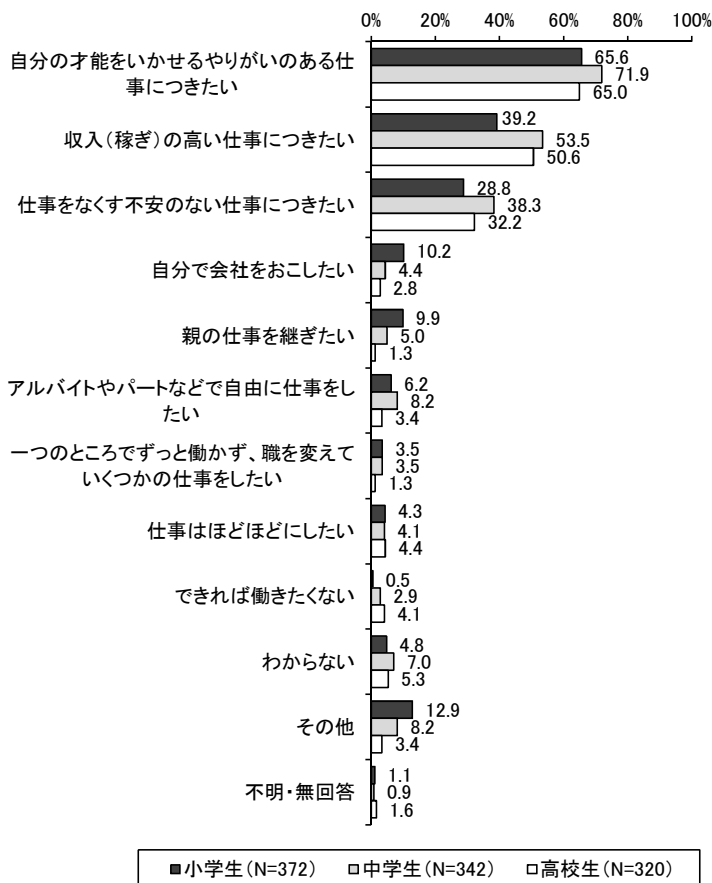
将来のことについて

●将来の夢の有無〈単数回答〉

将来の夢の有無をみると、小学生、中学生、高校生いずれも「はい（持っている）」が最も高く、それぞれ81.7%、53.2%、55.6%となっています。また、年齢があがるほど、「はい（持っている）」が低下傾向にあります。



●仕事における将来の希望〈複数回答〉

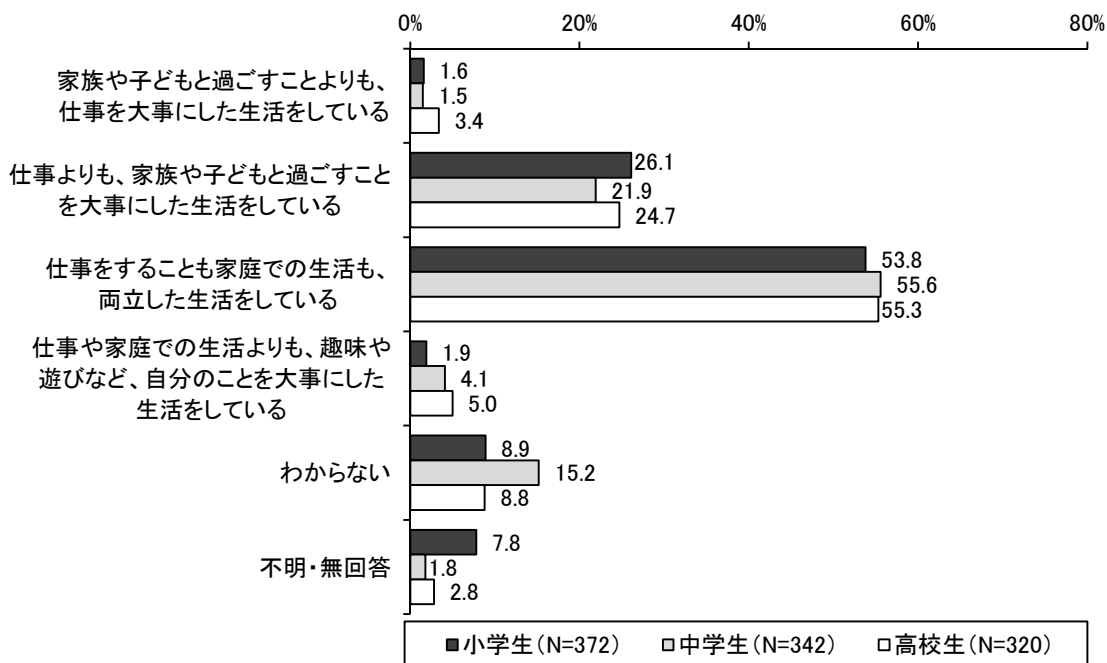


仕事における将来の希望をみると、小学生、中学生、高校生ともに「自分の才能をいかせるやりがいのある仕事につきたい」が最も高く、それぞれ65.6%、71.9%、65.0%となっています。

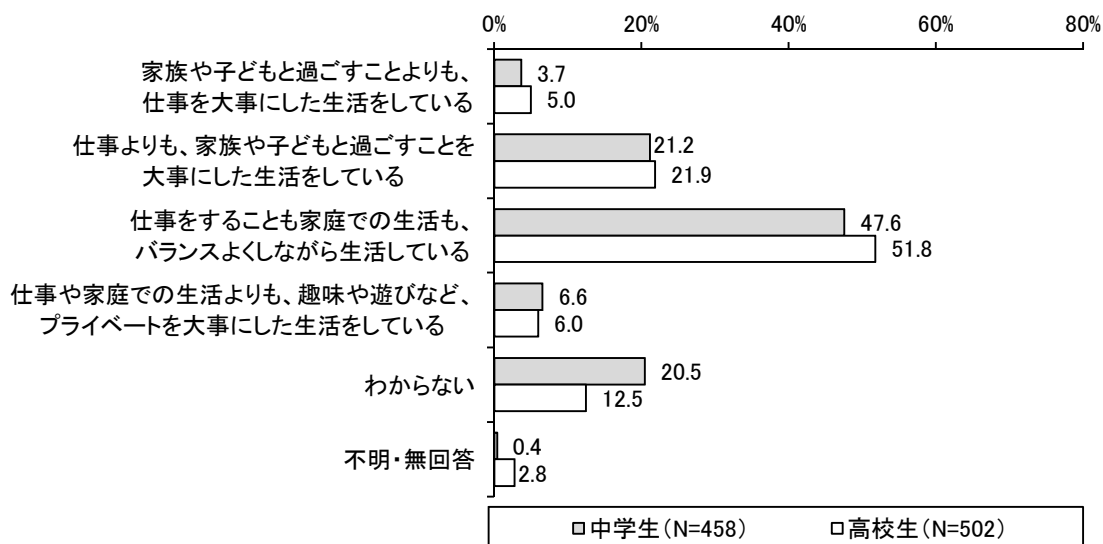
次いで、3者ともに「収入(稼ぎ)の高い仕事につきたい」「仕事をなくす不安のない仕事につきたい」が高く、安定した仕事を求めています。

●将来における仕事や家庭での生活

将来における仕事や家庭での生活をみると、小学生、中学生、高校生ともに「仕事をする 것도家庭での生活も、両立した生活をしている」が最も高く、それぞれ 53.8%、55.6%、55.3%となっています。次いで「仕事よりも、家族や子どもと過ごすことを大事にした生活をしている」となっており、それぞれ 26.1%、21.9%、24.7%となっています。仕事を大事にした生活よりも、仕事と家庭での生活の両立や家庭を大事にした生活が大事とされています。



【前回調査結果】(将来における仕事や家庭での生活)



和歌山市 子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査【結果報告書 概要版】

平成 26 年 3 月発行

編集・発行 和歌山市福祉局こども未来部子育て支援課

〒640-8511 和歌山市七番丁 23 番地

電話 073-435-1329 FAX 073-435-1341